

2025年8月12日発行

東海生研 ～メールマガジン 第248号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

1. 2025年度「知」の集積による産学連携推進事業

☆第2回セミナー開催のお知らせ

当研究会では、毎年、農林水産・食品産業に関わる5つの専門部会の新技術等に関するセミナーを開催します。多数のご参加をお待ちしています。

【開催日時】2025年9月4日(木)

【開催場所】ウインクあいち10階1003会議室(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

【開催方法】会場参加及びオンライン(Zoom Webinar)参加のハイブリッド開催

【講演】

○林産部会 13:10～13:50

「セルロース系バインダーを用いるバイオマス粉体の押出成形」

野中 寛 氏(三重大学 大学院生物資源学研究所 教授)

○食品部会 13:50～14:30

「お魚だって腸活したい!! ―プレバイオティクスとお魚の腸内細菌のお話―」

栃尾 巧 氏(藤田医科大学 医科プレプロバイオティクス講座 教授)

=休憩 10分=

○水産部会 14:40～15:20

「伊勢湾における生態系構造と生物生産力の変化」

曾根 亮太 氏(愛知県水産試験場 漁場環境研究部 漁場改善グループ 主任研究員)

○畜産部会 15:20～16:00

「畜産における環境問題について考える ―最新の知見に基づく検討―」

廣岡 博之 氏(京都大学大学院農学研究科 名誉教授)

○作物部会 16:00～16:40

「気候変動がカキに及ぼす影響と今後の産地展望」

林 秀輔 氏(岐阜県農業技術センター 果樹・農産物利用部 専門研究員)

*セミナー終了後、会場内で名刺交換会を予定しています。

セミナー等は東海生研HPからお申し込み下さい。<https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

2. 東海地域内のセミナー・シンポ・会議等

☆「海外展示会等への出展費用補助」を実施します!

愛知県では米国関税措置の影響を受ける県内企業の新たな海外販路開拓を支援するため、海外展示会・見本市に出展する際の費用の一部を補助します。

○海外展示会等への出展費用補助

【対象企業】 米国関税措置の影響を受ける又は受ける見込みがある、愛知県内に主たる事務所又は事業所を有する中小・中堅企業

【補助金額】 補助対象経費の3分の2以内上限50万円

【補助対象経費】 出展登録料、小間料、装飾代、備品等借上料

【補助対象事業】 日本・アメリカ合衆国以外において2025年7月15日（火）から2026年2月28日（土）までに開催されるBtoBを目的とした展示会・見本市

【申込期限】 8月29日（金）17時（必着）

【管理・運営】 愛知県アジア展開支援事業実行委員会（構成：愛知県、独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）名古屋貿易情報センター、公益財団法人あいち産業振興機構）

【詳細】 <https://www.pref.aichi.jp/site/kanzei-portal/kaigai-expo.html>

☆三重大学大学院生物資源学研究科オープンラボ2025開催のご案内

研究科オープンラボは、参加していただく農林水産、食品、バイオ・医薬品、化学、環境科学等の関連企業や公的機関、さらに地域の方々をも含む学外に向けて、本研究科の教員および学生の日頃の研究活動を紹介する機会としております。

今回は「生物資源学を貫く地道な基礎研究で地域に貢献を」と題し、「山の頂から海の底まで」の広範な研究分野の中から、地道に進められているユニークな生物資源学研究を紹介するシンポジウムと、研究科の教員および学生が取り組む研究を紹介するポスターセッションを企画いたしました。

ご参加いただく皆様に生物資源学研究科の活動内容とその成果について知っていただくとともに、皆様との情報交換を通して生物資源学研究科の新たな展開についてご一緒に考え、今後の大学ー地域コミュニティの発展につなげることができれば幸いです。

詳しくは、以下のURLをご覧ください。皆様のご来場を心よりお待ちしております。プログラム詳細 URL

<https://www.bio.mie-u.ac.jp/cate/news/openlab2025.html>

▼開催日時：2025年9月19日（金）13:00～17:00（受付12:15～）

▼開催場所：三重大学 共通教育校舎、環境・情報科学館

<https://www.bio.mie-u.ac.jp/files/open-lab-map2025.pdf>

▼開催内容：教員によるシンポジウムおよび教員・学生によるポスターセッション

▼参加対象者：農林水産、食品、バイオ・医薬品、化学、環境科学などの関連企業や公的機関の方、地域共創などに興味のある一般の方、学生など

▼申込方法：以下のリンクからお申し込みください（締切9月9日（火））

<https://forms.office.com/r/w86uiXqmpi>

■お問合せ先

三重大学大学院生物資源学研究科チーム総務担当 齋藤・竹中

TEL：059-231-9502

E-Mail：renkei(a)bio.mie-u.ac.jp ※「(a)」を「@」に変えてください。

.....

3. その他の地域でのセミナー・シンポジウム・会議等（オンライン開催があるもの）

☆【募集】「アグリビジネス創出フェア 2025」の出展者等の募集（8月22日まで）

農林水産省では、全国のスマート農業技術メーカーやスタートアップ等が参加して、農林水産・食品分野等の最新の研究成果を分かりやすく紹介し、出展者と来場者のマッチングを促す「アグリビジネス創出フェア 2025」を開催します。今年は「スマート・スタートアップー 先端技術で未来を拓く農林水産イノベーション」をテーマに、令和7年11月26日（水）から11月28日（金）まで、東京ビッグサイトにおいて開催します。

開催に先立ち、8月5日（火）から8月22日（金）まで、本フェアへの出展者等を募集します。出展要件等の詳細は、下記公式サイトを御確認下さい。

■「アグリビジネス創出フェア 2025」について

日時：令和7年11月26日（水）～28日（金） 10:00～17:00

会場：東京ビッグサイト西展示棟（西3ホール）（東京都江東区有明3-11-1）

出展料：無料（小間装飾、電気使用料等は御負担いただきます。）

入場料：無料

主催：農林水産省

■出展者等の募集について

「アグリビジネス創出フェア 2025」への出展等を希望する機関を募集します。

出展等を希望される場合は、公式サイトより出展要件等を御確認の上、お申込み下さい。

公式サイト：<https://agribiz.maff.go.jp/2025/>

募集期間：令和7年8月5日（火）～8月22日（金）

申込先：アグリビジネス創出フェア 2025 事務局（株式会社フジヤ内）電話 03-3533-5522

メール agri-ex★fujiya-net.co.jp（※「★」は半角の「@」に置き換えてください）

☆ニッポンフードシフト表彰事業「食と農をつなぐアワード 2025」を募集

農林水産省では、令和3年度から「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」に取り組んでいます。令和7年度においては、新たに表彰事業「食と農をつなぐアワード」を創設し、持続可能な食料システムを支える取組を表彰します。

<募集部門>

(1)食料の安定供給 (2)食品アクセスの確保 (3)持続的食料システムの確立

(4)スマート農業技術等の開発・普及

<応募期間（一次審査エントリー）>

令和7年7月1日（火）～8月12日（火）17時必着

詳細はこちら▼

https://nippon-food-shift.maff.go.jp/2025/aw_connect.html

茶業研修コース オープンキャンパス 2025 を開催します 8/19（火）

☆「2025年度農業生物資源ジーンバンク事業シンポジウム」を開催（9月3日）

農業生物資源ジーンバンク事業では、植物病原菌を主体とした多様な微生物遺伝資源を収集・保存し、研究開発のために提供してきました。

一方で、農業を取り巻く環境は多様化し、植物病原菌に限らず、様々な微生物遺伝資源

の活用が進められています。本シンポジウムでは、ジーンバンク事業で収集した微生物遺伝資源を活用した学術研究をはじめ、6名の講演者による農業・産業利用への応用展開、さらに微生物菌株の取り扱いに係る国内外の法制度等についての講演を行います。講演会後には、講演者を交えたグループディスカッションを行い、今後の微生物遺伝資源利用のあり方、ジーンバンク事業に求められる役割について考えます。

【概要】

○日時

2025年9月3日(水)

10時00分～11時00分：ジーンバンク見学(希望者のみ)

13時00分～16時00分：講演会・グループディスカッション

○場所

ジーンバンク見学：農研機構 遺伝資源研究センター

講演会・グループディスカッション：文部科学省研究交流センター

○申込

以下のウェブサイトの申込フォームよりお申込みください。

* 8月19日(火)17時00分締切

https://www.gene.affrc.go.jp/event-ws_20250903.php

▽詳細はこちらから▽

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/ngrc/169797.html

☆農研機構 果樹茶業研究部門では、茶業の担い手、指導者となる人材の育成を目的とした2年間の研修を金谷茶業研究拠点において実施しています。

オープンキャンパス2025は、施設の見学と合わせて本研修制度を紹介し、多くの方々に理解と関心を深めてもらうことを目的としています。

▽詳細はこちらから▽

https://www.naro.go.jp/laboratory/niffts/contents/nougi_kensyu/opencampus/index.html

.....

4. 農林水産・食品分野の公募情報

【研究開発関連】

■省庁等

・JST：「大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム 第2期 ステージ1」

■民間等

・公益財団法人ニッポンハム食の未来財団：「2026年度公募型研究助成事業」

・公益財団法人日本ワックスマン財団：「令和7年度学術研究助成金」

上記、各事業及びプログラムの詳細な情報については東海生研HPをご覧ください。

東海生研ホームページのNEWS(お知らせ)のURL <https://www.biotech-tokai.jp/>

.....

5. その他の情報

(1)新技術情報

☆施設園芸関係

○春～夏に遮熱剤を温室屋根面に塗布し、温室内の気温を下げる

多くの施設園芸品目では、近年夏季の異常な高温による、品質および収量の低下が課題になっています。ガーベラにおいても、従来の遮光カーテンによる高温対策のみでは不十分となっているため、今回、光合成に有効な光を通しながら、熱線を反射させる遮熱剤の効果を検討しました。

4月下旬に遮熱剤を塗布後、9月下旬に除去するまでの温室内の日平均気温は約0.5度低下し、ガーベラ‘サンディ’の販売可能な切り花本数は、10月末までの期間において、約30%増加しました。また、7月中旬に再度塗布を行うことで、更に約15%の増収が確認されました。切り花品質においても、茎径が太くなる、切り花重が増加するなど、品質向上効果がみられました。また、遮熱剤塗布により熱線を遮断することで、高温期における温室内での作業性向上効果も期待されます。

今後も夏季の異常な高温が想定されますので、ガーベラ等施設栽培環境の改善につながるように、高温対策技術の開発に取り組む計画です。

(静岡県農林技術研究所 花き生産技術科)

URL : <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/index.html>

☆穀物貯蔵関係

○大規模な低酸素環境で殺虫を実現

-地球環境に優しい窒素ガス置換殺虫技術-

農研機構は、窒素ガス置換により、酸素濃度0.1%、温度30℃の条件を4日間維持することで、貯蔵穀物の害虫を殺虫できる技術を開発しました。本法は、化学くん蒸剤に替わる環境に優しいガス置換殺虫技術として植物検疫を含め広範囲に適用できます。特に穀物、乾燥食品原料、香辛料に対して薬剤を使用しない大規模な殺虫に応用が期待されます。

▽研究成果の詳細はこちら▽

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nfri/169339.html

.....

編集後記

夏本番となりセミの声も早朝から部屋の中まで届いています。各地で厳しい暑さが続いており、熱中症で救急搬送されているニュースが連日報道され、対策の徹底が報じられています。また、猛暑によるコメなど農産物への被害も大変気になるところです。

さて、9月4日に第2回セミナーを開催いたします。セミナーでは、食品・作物・畜産・林産・水産の各分野の新しい技術開発のための情報提供を行っています。皆様のご参加をお待ちしています。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 中山・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2*y4.dion.ne.jp (*を@に書き換えてください)

URL : <https://www.biotech-tokai.jp/>

東海生研のメルマガ配信の登録 (無料) ご案内

<https://www.biotech-tokai.jp/ezine-reg>